

| | |
|--|---|
| <h2 style="margin: 0;">ハヤシミドリシジミの飼育法</h2> <p style="margin-top: 20px;">作成：2006.5.17 仲西周二</p> |  <p style="margin-top: 5px;">羽化した♂成虫</p> |
|--|---|

全般

本種はウラジロミドリシジミ、エゾミドリシジミと並んで翅表がミドリシジミ類中で最も強い青色である点が好まれるほか、大型のゼフとして手ごたえのある飼育が出来る、母蝶からの採卵が容易などの点からよく飼育される種類である。

ここでは卵からの飼育法について述べるが、冬季の卵の管理、春の孵化の要領などは他のゼフ類と同様でよく、その方法はゼフ共通編を参照願いたい。

孵化～2 齢幼虫の飼育

本種の植樹であるカシワ類は比較的芽吹きが遅い。中ではナラガシワがカシワよりやや早く芽吹くので、植樹として保有するならナラガシワがお勧めである。



私は餌交換の手間を省くため

に植樹の新芽を瓶挿しにして幼虫を付けているが、この場合は幼虫が摂食した新芽の傷口部分から水滴が染み出て周辺をベタベタ濡らして不潔になりやすい。対策として瓶挿し枝を収容する容器の蓋をせずに、開放状態で使用すると水分が飛んで快適な環境が維持できる。摂食時以外の幼虫は新芽の基部の葉柄内や瓶挿しの根元を塞いだ脱脂綿の上などに静止することが多く、瓶挿し枝から逃げ出すことはない。

少しでも早く飼育を始めて暑くなる迄に仕上げで大型個体を羽化させたい時、あるいはカシワ類が手に入りにくい場合などには、カシワ以外を使用して飼育を始める手もある。ウバメガシの使用が便利であり、芽吹きは早いしハヤシミドリは初齢幼虫から好食する。但しあくまでも本来の植樹でないため、個体群によっては食べないものもあるかもしれない。私はこの場合でも3 齢以降でナラガシワに切り替えている。そのままウバメガシを使用し続けて蛹まで飼育可能と思うが自分では経験がない。



3 齢幼虫以降の飼育

瓶挿しからポンカップ容器（開口部直径 10 c m程度）内の飼育に切り替えている。容器底部にティッシュを敷き、植樹の葉を摘んで供給する。ティッシュは湿度の吸収や、幼虫の休息場所提供の役割を果たす。餌替え時には糞を掃除した上で必ずティッシュも交換し、清潔で過湿にならない環境を維持して病気の発生防止を心掛けている。4 齢幼虫までは 4 頭程度、終齢では 2 頭程度の収容数としている。 以上



終齢幼虫



前蛹



蛹